運動器臨床解剖学—チーム秋田の「メゾ解剖学」基本講座—

初版 ならびに 改訂第 2 版　　正誤表

「運動器臨床解剖学—チーム秋田の「メゾ解剖学」基本講座—」(初版　2020 年 5 月 発行、改訂第 2 版　2024 年 5 月発行）におきまして、下記の箇所に誤りがございましたので、赤字の如く訂正をいたします。 読者の先生、ならびにご関係の皆様に多大なるご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

2025 年 1 月　株式会社 全日本病院出版会

＜初　版＞

p.48　左段 16 行目

誤）棘窩切痕を通過した後に棘下筋の横走部に支配枝を出すが、斜走部は形態上棘下筋であるが、棘窩切痕を通過する前に支配枝が分岐していた(図 7)。

正）棘窩切痕を通過した後に棘下筋の斜走部に支配枝を出すが、横走部は形態上棘下筋であるが、棘窩切痕を通過する前に支配枝が分岐していた(図 7)。

p.50　図 7 説明文

誤）★：棘下筋横走部

正）★：棘下筋斜走部

p.129 左段　15 行目

誤）半膜様筋が大腿二頭筋の長頭腱の内側面に付着しているということが明らかになったのである.

正）半腱様筋が大腿二頭筋の長頭腱の内側面に付着しているということが明らかになったのである.

＜改訂第 2 版＞

p.54　左段 15 行目

誤）棘窩切痕を通過した後に棘下筋の横走部に支配枝を出すが、斜走部は形態上棘下筋であるが、棘窩切痕を通過する前に支配枝が分岐していた(図 7)。

正）棘窩切痕を通過した後に棘下筋の斜走部に支配枝を出すが、横走部は形態上棘下筋であるが、棘窩切痕を通過する前に支配枝が分岐していた(図 7)。

p.56　図 7 説明文

誤）★：棘下筋横走部

正）★：棘下筋斜走部

p.167　左段 14 行目

誤）半膜様筋が大腿二頭筋の長頭腱の内側面に付着しているということが明らかになったのである.

正）半腱様筋が大腿二頭筋の長頭腱の内側面に付着しているということが明らかになったのである.